

理工学部におけるキャリアガイダンスの実施方法及び教育・指導内容

理工学部は、本学部の学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うことを目的として、以下の実施方法及び教育・指導内容をもって、キャリアガイダンス（社会的・職業的自立に関する指導等）を実施する。

1. 実施の方法

- ① 本学部のキャリアガイダンスは、下表の段階ごとに正課教育と正課外教育及び指導に区分した教育・指導内容をもって実施する。
- ② キャリアガイダンスの教育・指導は、教務委員会と就職委員会を中心に計画・実施・改善を行う。
- ③ 正課教育は、主に教務委員会を中心に、各学科の教育目的に応じて立案し実行する。
- ④ 正課外教育及び指導は、主に就職委員会を中心に、各学科の教育目的に応じて立案・実行する。
- ⑤ 各年次にチューターを配置し、各学生の履修した教育・指導内容を確認しつつ、指導を行う。
- ⑥ 各教員は、それぞれの授業科目に応じたキャリアガイダンスを実施するとともに、教育内容の充実に務める。
- ⑦ 就職委員会は、キャリアセンターの協力の下に、学生の就業力向上のための環境保全に努める。

2. 教育・指導内容

数理科学科

段階	正課教育	正課外教育及び指導
I	<p>○大学入門科目において、将来像を念頭に 4 年間の履修計画を立てさせるとともに、キャリアセンターと協力して「キャリアデザイン入門」を講義する。</p> <p>○専門基礎科目において、専門分野における将来の職業像を明確に意識させる。</p> <p>○現在の国際化社会では、英語能力が必須となっている。このため将来、数学英語を話すことを考慮して数理科学英語を開講する。これはまた、大学院に進む学生にとっても非常に貴重な科目である。</p>	<p>○新入生オリエンテーションにおいて専門分野に関わる就職先や就職状況を把握させる。</p>
II	<p>○専門科目において、それぞれの専門分野と社会とのつながりを学ばせ、専門知識の社会的な意義を意識させる。</p>	<p>○過年次生オリエンテーションにおいて、専門分野に関わる資格や就業内容についての知識を身につけさせる。</p> <p>○キャリアセンター主催の各種「就職対策講座」によって、各種資格の内容や就職活動についての知識・技能を身につけさせる。</p>
III	<p>○専門科目を通じて、専門分野で自立するための知識・技能を意識させる。</p> <p>○講義及び演習において、必要な専門知識の習得方法を身につけさせるとともに、プレゼンテーションの技能を学ばせる。</p> <p>○卒業研究および卒業論文作成のなかで、専門分野で自立するための問題発見・解決の方途を学ばせる。</p>	<p>○キャリアセンター主催の各種「就職ガイダンス」によって、就職活動方法についての知識を身につけさせる。</p>

物理科学科

段階	正課教育	正課外教育及び指導
I	○大学入門科目 I（1年次前期）において、全15コマ中の幾つかを、履修科目とキャリアとの関連、就職・進学についての意識を高めるための時間にあてる。	○チューター面談において学生と話し合う中心題材の一つとして、早期から学生自身の将来像（イメージ）を持ち、キャリア意識を高めるよう指導する。 ○ガイダンスでは、教務関連の説明で、教員免許に関する心構えと教職科目履修についての注意を周知する。
II	○2年、3年次配当の学生実験において、実験室で生起する諸問題を自らの方針と見通しを持って解決する訓練を行う。レポート作成に於いて経過、結果を論理的に筋道だてて記述する能力の向上を図る。	○後援会のサポートを得て、年1回ほど卒業生（社会人）を招待して講演会・座談会を開き、実社会で活躍している先輩の体験談、社会人となる心構えなどを聞く機会を持つ。 ○就職問題専門の外部講師をよび、キャリアに対する基本的考え方を中心としたレクチャーを企画する。
III	○卒業研究の指導で、定期的に進捗状況の報告をさせ、実社会で必要とされるコミュニケーション・プレゼンテーション能力向上を図る（各研究室）。	○就職担当教員などによる個別指導。

知能情報システム学科

段階	正課教育	正課外教育及び指導
I	○大学入門科目において、キャリアデザイン入門およびOB・OG講話の時間を設け、自己のキャリア設計を考える機会を持たせる。 ○専門科目において、情報処理関係の資格取得を奨励すると共に、受験に必要な知識を習得させる。	○新入生ガイダンス及び大学入門科目で技術者教育プログラム(JABEE)に関する説明を行う。
II	○専門科目において、情報処理関係の資格取得を奨励すると共に、受験に必要な知識を習得させる。	○卒業研究発表会や次年度卒業研究テーマ説明会、進路説明会を開き、所属研究室選定や大学院進学を含めた進路の決定に役立てる。 ○就職説明会、会社説明会等を適宜開催し、就職先の決定等に役立てる。
III	○卒業研究・卒論執筆において、専門分野で自立するための問題発見・解決の方途を学ばせる。	○進路説明会、就職説明会、会社説明会等を適宜開催し、大学院進学を含めた進路の決定等に役立てる。

機能物質化学科

段階	正課教育	正課外教育及び指導
I	○「大学入門科目」で1～2コマの指導。 ○「情報基礎演習 I, II」で1コマをラーニングポートフォリオ(LP)入力に当てる。	○入学時のオリエンテーション。 ○LPを用いた上でチューター指導。 ○後学期のオリエンテーションで指導。
II	○専門分野で自立するための知識・技能に関する講義を取り入れた専門科目の講義を一部で実施する。 ○専門分野と社会との関わりを取り入れた専門科目の講義を一部で実施する。	○各学期開始時にオリエンテーションを実施して指導。 ○各学期開始時にチューター面談を行い指導。 ○3年次研修旅行で企業見学を実施。

		○3年後期より就職説明会を開いて就職活動を支援。
III	○「卒業研究」で問題発見・解決能力、プレゼンテーション能力の個別指導。 ○「化学技術者倫理」、「知的財産権法」の講義で社会性を修得させる。	○就職担当教員による就職指導。

機械システム工学科

段階	正課教育	正課外教育及び指導
I	○大学入門科目「創造工学入門」において、技術者としての将来像を念頭においた「ものづくり」を体験させる。 ○機械工学の基礎となる各種力学科目について、演習科目との一体科目として必修科目とし、技術者として必要な基礎知識を偏り無く学習させる。	○入学時のオリエンテーションにおいて、4年間の履修計画、卒業後の進路（大学院進学および就職）について把握させる。 ○「創造工学入門」と連動した研修合宿を実施し、グループによるディスカッションやプレゼンテーションの方法を学ばせる。
II	○「技術者倫理」などの専門科目において、技術者としての社会との関わり方について自ら問題点を考えながら学ばせ、専門分野と社会とのつながり、専門知識の社会的な意義を意識させる。 ○主題科目、周辺科目を通じて、職業人として必要な幅広い教養を身につけさせる。	○工場見学を実施し、現場の見学を通じて、社会におけるものづくりの重要性を再認識させる。 ○希望者に対して、旋盤、仕上げなどの技能検定試験の受験を目指した実技指導を行う。 ○TOEIC IP テストを実施し、全学生に受験するよう指導することで、英語能力の研鑽に努めさせる。
III	○専門科目を通じて、専門分野で自立するための知識・技能を意識させ、必要な専門知識の習得方法を身につけさせる。 ○「創造工学演習」において、自ら問題を設定、解決する能力を養い、ものづくりのプロセスを擬似体験させるとともに、プレゼンテーションの技能を学ばせる。 ○卒業研究および卒業論文作成において、専門分野で自立するための問題発見・解決の方途を学ばせるとともに、プレゼンテーション技術についても指導する。	○就職説明会を開催すると共に、就職担当による個別面談を複数回実施し、就職活動方法についての知識を身につけさせる。 ○SPI を学科で実施し、全学生に受験するよう指導することで、就業への意識を高めさせる。 ○本学部卒業生による「就職懇談会」および「機械系技術者の教育・育成講演会」を開催し、社会で活躍している技術者の講演を聴講させる。 ○インターンシップへの参加を奨励し、選択科目「機械システム学外実習」としての単位認定を行う。

電気電子工学科

段階	正課教育	正課外教育及び指導
I	○大学入門科目において、将来像を念頭に4年間の履修計画を立てさせるとともに、「キャリアデザイン入門」を講義する。	○新入生オリエンテーションにおいて専門分野に関わる就職先や就職状況を把握させる。

II	○専門基礎科目及び専門必修科目において、それぞれの専門分野と社会とのつながりを学ばせ、専門知識の社会的な意義を意識させる。	○在学生オリエンテーションにおいて、専門分野に関わる資格や就業内容についての知識を身につけさせる。
III	○専門科目を通じて、専門分野で自立するための知識・技能を意識させる。 ○実験、演習等において、必要な専門知識の習得方法を身につけさせるとともに、プレゼンテーションの技能を学ばせる。 ○卒業研究および卒業論文作成のなかで、専門分野で自立するための問題発見・解決の方途を学ばせる。	○卒業研究指導において、卒業研究の方法とともに、就職活動方法についての知識を身につけさせる。

都市工学科

段階	正課教育	正課外教育及び指導
I	○「大学入門科目」において、都市工学分野の職域について解説し将来を意識させる。 ○「都市工学概論」において、本学科の都市環境基盤コースと建築・都市デザインコースおよびそれらに共通する科目内容を概説し、当該専門分野について理解させる。	○入学時オリエンテーションにおいて、4年間の学習やその専門領域を意識させることを念頭に、カリキュラムやその履修方法を理解させる。また、卒業後の進路について説明する。
II	○専門科目を通じて、専門分野で自立するための知識・技能を意識させ、必要な専門知識の習得方法を身につけさせる。 ○「インターンシップ」を開設し、都市工学関連分野においてインターンシップの機会を提供する。 ○「コース共通特別演習」等の演習科目において、社会性や公共性のある課題に取り組みせ、実社会における専門的職域を理解させる。	○都市工学科コース配属説明会を実施し、コースごとの進路や就職、資格と専門科目との関係を理解させる。 ○建設現場研修（合宿研修）に参加させ、また各種現地見学会・シンポジウム等への参加を奨励し、専門的な職域を具体的に理解させる。 ○TOEIC 受験や SPI の実施等により、就業への意識を高めさせる。
III	○「技術者倫理」において、専門的職業人に求められる倫理について考え、理解させる。 ○卒業研究を通じて専門分野で自立するための問題発見・解決の方途を学ばせ、プレゼンテーション技術を身につけさせる。	○学科就職説明会を多数回実施し、本学科卒業生や社会人による講演等を行うとともに、企業研究の方法や進路等について具体的に検討させる。